

2020年10月1日

令和2年7月球磨川豪雨検証委員会
熊本県知事 蒲島郁夫様
九州地方整備局長 村山一弥様
八代市長 中村博生様
人吉市長 松岡隼人様
芦北町長 竹崎一成様
錦町長 森本完一様
あさぎり町長 尾鷹一範様
多良木町長 吉瀬浩一郎様
湯前町長 長谷和人様
水上村長 中嶽弘継様
相良村長 吉松啓一様
五木村長 木下丈二様
山江村長 内山慶治様
球磨村長 松谷浩一様

お願い文

7・4 球磨川流域豪雨被災者の会
共同代表 鳥飼香代子（人吉市）、市花保（球磨村）

私は、九日町に住んでおります鳥飼と申します。

1階で床上約1.8メートル水が来ました。1階は無料塾や子ども食堂として利用しており、関連の電化製品や机・椅子ほぼすべて使用不能となりました。
現在、床や壁も剥でおり、鉄骨やコンクリートがむき出しの状態です。

7月4日の早朝のことは今でもハッキリ覚えております。

前日から垂直避難をして3階に移動しておりました。朝5時位から3階の窓越しに、球磨川の水面をずっと眺めていました。

それでも心のどこかで、まさか堤防を超えることはないだろうと思っていました。

7時ころ、堤防を超え水は駐車場に入り、そのまま九日町通りへと流れ込んできました。その後水かさはどんどん増え、窓から眺める九日町通りは、まるで球磨川がもう一本できたかのような様子でした。

皆さん無事に避難されたかなと高齢の方々の顔が浮かびました。

その時、最も恐れたのは「市房ダムを放流します」との予告放送でした。この予告の放送は何度もありました。



結局、放流はなされませんでした。しかし、今でももし放流されていたら、私たちはどうなっていたのだろう、九日町よりももっと低いエリアはどんな被害が出ていたのだろうと、考えない日はありません。

知人は濁流の中、かろうじてよじ登った屋根の上で放流予告を聞いたそうです。その絶望感を想像してみてください。

その時ダムは本当に怖い、ダムの下流域に住むのは爆弾を抱えて生活しているようなものだと思います。

特に、想定外、観測史上初、線状降水帯等、気候変動の激しい現代で、想定雨量をもとにつくられているダムは、豪雨のたびに、限界を超えるのではないかと大きな不安材料です。市房ダムが放流されていた場合の想定被害をぜひ明らかにしてほしいです。

また、市房ダムは建設後60年です。ダムの寿命は100年とのことですが、市房ダムが決壊した場合の下流域の想定被害状況も示してほしい。

心配しすぎかなとも思いますが、被災者としては最悪の場合も知って、できる対策を考えていかないと、この場所に安心して住み続けることはできないです。

それなのに、新たに川辺川ダムを建設し、洪水対策をするという話が出てきたのには、心底驚きました。

私たちは、また新たな爆弾を抱えてしまうこととなります。

私達のあるいは子どもたちの財産や命まで失うかもしれないにもかかわらず、私たち当事者の意見も聞かないで、ダム建設の話が進んでいくことは理不尽です。

当事者の話も聞かないで、何をそんなに急ぐのか理解できません。

もっとゆっくり、ダムの役割や危険性をしっかり検証し、正確なデータを出してから進めるべきです。

そして、そもそもダムは建設に相当の年月がかかるので、急いでの対策には不向きだと思います。

検証委員会、知事にお願いしたい。

犠牲を払わないといけないのは今回の犠牲者です。すでに経済的に相当の被害を受けました。命も失われました。財産や命にもかかわる問題を私達当事者の意見も聞かないで決めるのは、権利侵害ではないでしょうか。

せめて、もっと時間をかけ、明確な検証をしてほしい。

私たちの意見を聞いてほしいです。

特に今回犠牲者の方々は命を懸けて私達に、危険場所を示してくれました。

机上や実験室ではできない、命を投げ出しての危険エリアのデータです。

この結果を真摯に受け止め、私達の安心生活の基本データとすることこそ最初にするべきことではないでしょうか。ハザードマップの修正箇所も見つかっておりますし。

国土交通省も、「防災意識社会」へと転換させないといけないとの提案の中でソフト対策の重要性を指摘しています（平成30年）。ソフト対策も例えばハザードマップを作るだけでなく、住民の避難意識啓発が重要であるとし、住民の「本気意識」というか「参加意識」の重要性を指摘しています。被災者の意見を聞くことはその第一歩ではないでしょうか。

現在九日町商店街は、まだ泥出しが済んでいない店舗が相当数あります。「店を閉じる」との声の方が多いと思われまます。また、移転して別の場所で再建したいとの声も聞かれます。夜は真っ暗になり、人の姿がほとんど見られません。このままでは商店街は名ばかりで、住人のいない九日町になってしまいます。渡地区も同様で、高台移転だけでなく、他の地域への移住の話がかなり聞かれるそうです。これが被災者の現在です。

最後に、令和2年7月球磨川豪雨検証委員会、熊本県にお願いしたいことをまとめますと以下の5点です。

- 今回の豪雨の場合での
- 第一に、市房ダムを緊急放流した場合の想定被害の明確化
 - 第二に、市房ダムが決壊した場合の想定被害の明確化
 - 第三に、川辺川ダムを緊急放流した場合と、川辺川ダムが決壊した場合の想定被害の明確化
 - 第四に、今回の豪雨の被災者の意見も聞かないで進める理由。
(被害者が一番正確な情報を体験しています。尚、首長さんたちは被災者の話も聞いていませんので、被災者の民意は代弁していません。)
 - 第五に、そんなに急ぐ理由
(早く住民に安心してもらおうとの考えでしたら、ダムは爆弾ですし、建設に年数もかかるので、不向きと思います。)

以上

2020年10月1日（文責 共同代表 鳥飼香代子）

○連絡先（仮）

〒868-0037 人吉市南泉田町25 くまがわハウス気付

TEL:0966-22-3406

川邊敬子（土日可。平日は16時以降）